

令和5年第4回千葉県認知症対策推進協議会 議事概要

【開催日時】令和6年3月15日（金）午後4時から午後5時まで

【会場】プラザ菜の花 4階楨1-2

【出席者】協議会委員23名、ちば認知症オレンジ大使1名、県関係課4名、  
県事務局6名 計34名

【あいさつ】上林 健康福祉部高齢者福祉課長

【議題】

- (1) 千葉県高齢者保健福祉計画について
- (2) 千葉県保健医療計画について
- (3) 千葉県オレンジ連携シートのアンケート結果について
- (4) その他

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 出席者名簿
- ・ 千葉県認知症対策推進協議会設置要綱
- ・ 資料1-1 千葉県高齢者保健福祉計画（認知症部分）最終案
- ・ 資料1-2 千葉県高齢者保健福祉計画 個別事業の目標値 最終案
- ・ 資料1-3 R5第3回協議会に対する御意見一覧
- ・ 資料2 千葉県保健医療計画（認知症部分）最終案
- ・ 資料3-1 オレンジ連携シートのアンケート結果について
- ・ 資料3-2 オレンジ連携シートアンケート結果（全体）
- ・ 資料3-3 オレンジ連携シート様式
- ・ 資料4 令和6年度認知症に係る事業の実施について

<議題1>千葉県高齢者保健福祉計画について、資料1-1～1-3を基に  
事務局から説明

【会長】

はじめに、ちばオレンジ大使のただおさんが来てくださっているので、お話をお伺いしたいと思う。

マラソンや絵画などいろいろなことに取り組んでいるということで、そういったお気持ちや、こういうサポートがあればもっといいなどあったらお話いただきたい。

【ちばオレンジ大使 ただおさん】

普段たくさん人がいる中で、自分と合わない人がどうしても出てくる。

むしろ出てくるものより、早くいろんなものを、いい感じに移す。そういうことを続けていけば、いろんな意味でいいふうになるのではないか。

これからも、私は皆さんといろいろ話をしたり、会ったりして、自分も勉強しながら、全員がいい感じに全てなるように、そういうことを続けたら非常にいいと思う。

いつも私はマラソンをやっているが、体を動かすことを常にやると、脳も一緒だが、非常にいい形で自分だけではなく、周りの皆さんにも一緒にやっていただくとか、いい感じでみんなやるという方向にいけば、全体的に変わってくるのではないかなと思う。

私はいつも歩いているときもあるが、自分1人ではなく、周りには小さい人から大きい人も含めて、大人はそういう人たちを見てくれないかなと思ってる。

あしたばアートもあるが、それも含めて、自分たちだけではなく、全体を皆さんが、いろんな人を見てくれると、非常にいい結果に落ちるのではないかと考えている。

今まで自分自身も、何かをやろうと思っても、できないことが何回もあったが、

その何回かを努力させるためには、他の人たちも一緒になってやっていただければ、非常にいい形で進むのではないかと思います。

その辺は、ぜひよろしくお願ひしたい。

今までもいろんな集まりでやらせていただいたが、自分だけではなく、周りの人達も含めていい方向に動かすようなものが、非常にいいのではないかと思います。

これからもいろんなことが出てくるが、自分だけではなくて、他の人もどうしているかというのを見ても非常にいいのではないかなと思う。

学校に行ってる人たちが遊び過ぎていたら、注意するとか、そういうこともやるようになった。

その間、それぞれのお子さんがうるさいなどいろいろあったが、徐々に少なくすれば、全員でいい人たちになるのではないかと考えている。

私も自分の頭で伝えているが、自分だけではなく、周りにいる皆さんと一緒に同じように、いい方向に進め合う、そういうことでやっていけば、いろんなところでいい方向に進むのではないかと思います。

そういうことを考えた上で、私だけではなく、皆さん全員が、いろんなことであつたとしても、少しでもいいから気を使って、世の中が良くなるように全員が進むようになったらいいのではないかと思います。よろしくお願ひしたい。

#### 【会長】

ただ今いただいたお話を参考にして、いい方向に向かうよう、行政の方もよろしくお願ひしたいと思う。

<議題 2>千葉県保健医療計画について、資料 2 を基に事務局から説明

#### 【委員】

13 ページの表について、文字のところは直していただいたが、元の画像について、AとBの線は見えるのか。

今まで気がつかなかったぐらいだが、それがどうなるか確認したかった。

**【事務局：高齢者福祉課】**

画像として、例えばホームページなどで見たときに、はっきり見えるように強調できるのであれば、そのようにしたほうがよろしいという御趣旨と受け止めた。

最終調整のところで工夫させていただきたい。

**<議題3>千葉県オレンジ連携シートのアンケート結果について、資料3-1  
～3-3を基に事務局から説明**

**【会長】**

使用している件数としてはあまり増えていないが、実際に使っている方々からは有用であると御意見をいただいているとなると、普及啓発を頑張っていたくことになるのかと。

**【委員】**

このグラフを見て、看護職の「知らない」が45%ということであるが、調査の実施期間が、令和5年5月17日から6月30日までであり、認知症の研修を年に5本ほど行っており、その際に、講師の方をお願いして、この用紙を配って周知を図るようにしたところなので、この後の数字が伸びてくるといいかなと思う。

認知症の研修の講師を、認知症看護認定看護師さん達に主をお願いしているが、その方々でも知らない方々がいるのも事実。

認定看護師、専門看護師の間でも周知いただくようお願いしているところ。もっと頑張っていこうと思うので、これからもよろしくお願ひしたい。

【会長】

今お話しにあったが、行き渡り方にもう少し工夫が必要かなと思う。

【委員】

ケアマネさんのアンケートの中で、色々なものが重複して大変だという意見があるが、助川委員いかがか。

【委員】

ケアマネは、アセスメントからケアプランという形で、ケアマネジメントのプロセスの中で、かなりいろんなアセスメントをしたり、文章をまとめたりとかいうことがあるので、また改めてこれをまとめるというところが、非常に手間になっているのかなと思う。

最近のアセスメントの中では、認知症の報告をしっかりとしているので、当然連携したら、補足の電話をし、そのときにいろいろと注意事項は伝えている。

情報の共有に関しては、必ずしもこれを使わなくてもいいのかなと。

【委員】

すごく大事なこと。在宅の要はケアマネさんなので、そのケアマネさんが上手に使えないものを浸透させていくということは、疑問に思っているのかなどは思っている。

【委員】

実は作ったときの委員でもあったが、何でわざわざこれを作ったかと言ったら、認知症のBPSDで、少し状況が悪くなったらすごい大変だという形で、本人の状況ではなくて、BPSDのひどいところだけが伝わってしまうという状況があったので、正確に伝えていきたいということで、これを作ったわけなので、

その趣旨を理解していただければ、もう少し浸透していくのかなと思う。

**【委員】**

ケアマネさんがあんまり大変なことは、気の毒だなと思っている。

**【委員】**

病院で実際に受けるMSWとしてはじめさせていただくが、実際にオレンジシートを見る機会は、ほんとに年2、3件ぐらいになっている。

私が所属するのが大学病院で救命センターだからということもあるのかもしれないが、実際に助川委員さんがおっしゃったように、今連携シートの方がかなり充実してきていて、連携シートをもし見直す機会があったら、認知症のところをもう少し強化するという形で、シート1枚にするのでも十分なのかなというふうに感じている。

連携シートは積極的にケアマネージャーさんが送ってきてくださり、病院としてもそれを頼りにアセスメントを深めさせていただいているところがあるので、オレンジシートはなかなか見かけないが、ケアマネさんが送ってくださる連携シートの中に認知症のことがすごく記載されているという現状をお伝えしておきたいと思う。

**【会長】**

協議会で進めてきたものだが、利用されないのなら別のことを考えないといけない。

利用している方々にとっては非常に有用だが、現実的には広がりが悪いということは、多くの方々には、必ずしも有効ではないということになってしまう。

その辺も見直しを含め、検討が必要かなと思う。

【委員】

同じ項目のようなものを何回もチェックしたり、書かなくてはいけないという事は、ケアマネには負担になるので、今ベシックに使ってる連携シートプラス、認知症の記載ができるような形や、現状ペーパーベースというのはだんだんなくなってくると思うので、そうなってきたらもう少し書いたものが飛んでいくような形になってくれば、もう少し早いかと思う。

ICTのDX化などすごい早く進んでくるような気がするので、また変わってくるかなと期待している。

【会長】

そういう方向に急速になっているが、個人情報の問題がまだあるので、紙の方が安心という場合もあると思うが、記入する側からすると、一つ書いたら、同時に複数の情報がいく方が便利。

ケアマネさん達はものすごく忙しく、残業残業という方がいっぱいいると伺っているので、そういった方向も念頭に入れながら、進めていただきたい。

【委員】

看護師の「知らない」が多いので、まずは知らないといけないと思うが、全体を見ると、赤いところ、見たり聞いたりしたことがあるというパーセントが多い。

知ってるけど使わない理由があるとするならば、それをアンケートで聞くと、このままいくのか、方向を変えるのかというのが分かるのではと思った。

【会長】

段階を踏んでというと、知っていて使わない理由が、他の方法があるのでこちらは使わないということも含めて、また検討していくのがいいのかなと。

#### <議題4>その他について、資料4を基に事務局から説明

##### 【委員】

今日、2月号の支部報をなぜ皆さんにお配りしたかという、1つ目は、前にこの委員会でヘルプカードの説明を求めたときに、県から資料を送っていただいたので、ヘルプカードということを書いた。

それから、オレンジ大使の募集の記事を書いたので御参考までに配らせていただいた。

もう一枚の別刷りは、ただおさんが見えるというので、ただおさんがぼーれぼーれの本部報に載った。皆さんの分がなかったので、コピーをして配布をさせてもらった。

それから、2月末に東京ビックサイトで、医療介護の大きなイベントがあり、そこで代表がただおさんにインタビューした録画を使い、皆さんに発表したということをお知らせする。

##### 【会長】

オレンジ連携シートをどうするかという大きな問題があるので、その辺について、検討が必要かなと思う。

その他何かあるか。

##### 【委員】

最近介護報酬の改定があり、目に見えて訪問介護の方がすごく減額されたが、その原因としては、施設に移行していくということ、高い市民のニーズがあってそれに合わせて施設を作る、でもそれが追い付かないのでは、サービス付き高齢者住宅だ、というような政策を十数年後に立てて、それを基にどんどん多くの人達が、在宅からの生活を離れて施設に入所するということが進み続けている。



そんな中で、サービス付き高齢者住宅というところにおいては、訪問介護の人たちがどんどん入って、介護も成り立たせるというシステムになっているので、訪問介護の事業所の利益率が高くなってしまった。

そういうこともあり、訪問介護の診療報酬も下げられたが、実際は訪問介護のおかげによって、施設に入っていない人たち、入所していない在宅の人たちの生活がとても支えられてる。

そういった事業所がこれからなくなっていく、千葉県内からすでになくなり始めている。

そういう状況がある中で、認知症の人をどう支えていくかということは、非常にとても大きな問題で、こういう計画の場と違う話になるかもしれないが、実際にその人たちを地域で支えるといったときには、そういった事業所の人たちの力がなくてはとても成り立つことではないので、皆さん世間一般の視点でも何でもいいから、そういう介護保険はどうなってるのか、みたいなことについても、意見を交わし合うようなことをぜひ行ってもらえたらなと、すごく切に思う。

#### 【会長】

今お話があったようなことについて、いつも調査調査になってしまうが、現実はどうなっているのか、それと同時にニーズはあるのか、そこを把握して理解してもらうことは必要。

その他なければこれで終わりとなるが事務局から何かあるか。

#### 【事務局：高齢者福祉課】

おかげをもちまして、本年度の協議会におきましては、オレンジ大使の方からも、御自身の言葉で、本日もみんなと一緒にということで、まさに地域共生社会の考え方そのものといった御意見を直接いただき、委員の皆様からも専門的立場から、また現場に即した御意見といったものもたくさんいただくことが

できた。

改めて、行政を進めていく上で、どんな施策を展開するにあたっては、当事者の方の声や、現場の方々の声をしっかり受け止めて、今後の展開に活かしていくといったことが非常に重要であるということを、心に刻ませていただいた。

今後も、誰もが住み慣れた地域で、安心して、自分らしく暮らし続けていけるように取り組んで参りたいと思うので、引き続きご協力の程よろしくご願い申し上げます。

#### 【会長】

では、以上で本日の議事は終了となる。お疲れ様でした。